

第4回 柿田川を語る会 会議要旨

○開催日 令和6年7月26日(金) 10:00～11:30

○会場 清水町役場3階 大会議室

○出席者(委員)

- ・岩崎 清悟 座長 (清水町みらい会議)
- ・漆畑 信昭 委員 (柿田川みどりのトラスト)
- ・押尾 市郎 委員 (柿田川自然保護の会)
- ・渡辺 敏彦 委員 (柿田川・東富士の地下水を守る連絡会)
- ・石垣 雅雄 委員 (柿田川湧水保全の会)
- ・秋元 稔 委員 (清水町区長会)
- ・久保田俊治 委員 (清水町商工会)
- ・木部 一 委員 (清水町ゆうすい未来機構(わくら柿田川))
- ・半田 昭博 委員 (清水町教育委員会)
- ・武藤 剛 委員 (清水小学校)
- ・名倉 達 委員 (清水町文化財保護審議会)
- ・猪ノ原 恭 委員 (清水町子ども会育成連合会)
- ・久保田千明 委員 (清水町民生委員児童委員協議会)
- ・村上 榮 委員 (一般公募)
- ・小川 侑男 委員 (清水町シニアクラブ連合会)
- ・加藤 英明 委員 (静岡大学教育学部)
- ・藤井さやか 委員 (一般社団法人いちご)
- ・中村 一郎 委員代理 (沼津河川国道事務所)
- ・神戸 重敏 委員代理 (静岡県(東部地域局))

○欠席者(委員)

- ・中山 勝 副座長(清水町行政改革推進委員会)
- ・清水 周一 委員 (Reborn City SHIMIZU)
- ・小澤 徹也 委員 (清水小学校学校運営協議会)
- ・渡邊喜久夫 委員 (一般公募)
- ・山本 博保 委員 (一般公募)
- ・川村結里子 委員 (三島100人カイギ)

○出席者(町当局)

- ・関町長、秋山副町長、朝倉教育長、渡辺企画課長補佐、岩崎産業観光課主幹、大嶽社会教育課長、長島都市計画課長、事務局(都市計画課)

○岩崎座長挨拶

連日 35℃を超える猛暑が続いていますが、熱中症アラートも発せられておりますので、是非、お気を付けください。

こんな日には、「泉に行って、湧き間で身体を浮かべたら気持ち良いだろうな」などと、かつての少年時代を思い起こしたりしております。

本日は、こうした「柿田川での親水について」がテーマです。みなさんの意見をお聞きしたいです。どうぞよろしくお願いします。

議題 柿田川での「親水」について

～町民一人ひとりが、「身近」で

「受け継ぐべき町の誇り」として認識してもらえる方法について～

座 長：前回までの3回の会合で、柿田川が国の天然記念物指定を受け、全国三大清流の一つと称される、まさに清水町の誇るべき自然資産として存在していること、また、そうした今日の姿に至るまで、関係者による保存に向けた幾多の努力が傾注されてきたことを委員共通の認識としました。

その一方で、柿田川に対する町民の意識・認識はいかほどのものであるか、柿田川を身近な存在として、愛情をもって、或いは、町の誇りとして、他人に語ることでできる存在となっているかについては、残念ながら十分ではないように思います。

そこで、今回は、そうした認識を醸成するためにどのように取り組んだら良いか、ご意見を戴きたいと考えております。問題意識をより具体的に申せば、「柿田川の素晴らしさが、町民に上手く伝わっていないのではないか」、或いは、「現在の柿田川は、昔のような身近な川ではなく、町民にとって近くて遠いものになってしまっているのではないか」というものですが、これらを総称して、本日のテーマ「柿田川での親水について」皆様の忌憚のないご意見をお伺いしたいと存じます。

〈委員の意見〉

- ・ 柿田川は、資料を見ると平成 23 年に天然記念物に指定され、加えて平成 30 年にジオパークとなった。

我々の子どものころは、柿田川は、自由に泳いだり魚を取ることができた。柿田川みどりのトラストのおかげで、きれいになり「保全」することができた。しかし、子どもたちにとっては、縁遠くなってしまった。特に、南小学校区に住んでいる子どもたちは、柿田川のことをよくわからない。柿田川にもっと水と触れ合えるゾーンを作ったほうがよいのではないかと。昔、クレソン畑であったところは柿田川が流れている様子がよく見える。そこに期間限定でもよいので「親水ゾーン」を作ってみたらどうか。そうすれば、子どもたちに柿田川の良さがわかるのではないかと。

- ・柿田川は、日本三大清流であるが、他と比べると資源化と商業化が遅れている。清流を守ることは崇高なことであるが、それに固執しすぎると民意とかけ離れてしまうのではないかな。

2つの持論を出すと

- ① 記憶資源としての柿田川…子どもたちに故郷の誇れる資源として認識させることが重要である。これを実現するには、子どもたちに触れさせるだけでなく、カヤックやカヌーで流れを体験することも貴重ではないかな。子どもがこの地を離れても記憶に残り語り継いでくれるのではないかな。そうすることで、在留者や移住者が増えたらよい。
 - ② 産業資源としての柿田川…清水町には産業が少ない。名水では曖昧である。しかし、これを一次資源とするのであれば、二次資源を作ることが必須である。例えば柿田川の水を利用してレモンの亜種を栽培し、それを使って三次資源として飲料水、ゼリー、パンなどを作れば流通業等にも広がるのではないかな。
- ・2点ほど意見を述べさせていただきたい。
 - ① わくら柿田川は、展示物が非常に少ない。ジオパークのビジターセンターの指定を受けているがそれに対する展示は少ない。天然記念物やジオパークとして体系的には展示するものはほぼない。展示物等の充実が必要ではないかな。
 - ② わくら柿田川の位置が悪い。観光案内所として、関心がなくても立ち寄ってもらえるようなもっと良い場所にあるべきではないかな。また、先般他の委員からアニメの「ラブライブサンシャイン」に重きを置いてしまっているとの指摘を受けたが、どうにか観光案内所に寄ってもらえる方法がないか考えた中での手段の1つであった。結果として、柿田川のことがコアなファンによってSNSなどにより拡散されている。

もう1点、県企業局所管の水路が公園内にあるが、そこに水力発電施設を設け、自然の力を見せることはできないかな。

- ・この前、教材園の開放があった。教員をしている頃、清水小学校の先生は、広域の研修会などの時に教材園を自慢していた。今年度、教材園を見ることができたが、荒れ果てた感じがした。子どもたちの手で整備しながら再興することができれば素晴らしいのではないかな。全国どこを見てもこういう恵まれた教材園はないのではないかな。子どもたちが語り継げるようになるのではないかな。
- ・教材園は教育施設であることが絶対条件である。教材園は、学校の誇りであり決して荒れているわけではなく、自然が「保全」されているとみてほしい。清水小学校の子どもたちは、サワガニ等を見つけても、教師が言わなくても持ち帰らない。伝統として教材園で見つけたものは教材園に返すということが根付いている。前回の会議で出た「親水」とは水に触るだけでないという言葉がよい言葉だと感じた。柿田川公園の芝植えや先日の湧水保全の会の清掃活動に参加した。「親水」は守ることも大事である。

外来種の駆除などを子ども自ら体験することが重要である。学校教育としては子どもたちが柿田川を自分たちで守っているのだという意識を持たせることが重要と考

える。

- ・子どもは総合学習で理解している。柿田川に子どもが近づきたいと思っても、保護者である大人の気を引かないと子どもは柿田川に行けない。ラブライブのように SNS 発信は、今の子どもたちは SNS から知ることが多いのできっかけ作りに良いことだと思う。外来種駆除は、該当者が高校生以上であるが、小学生も何かしたいという意識は高いので何かしらの体験をさせることが重要である。
- ・昔のように水に入るとは難しいと思う。また、川に入るとを大人も子どもたちも求めているかもしれない。親水広場の充実やバーチャル、デジタルの方が、現在の子どもたちは興味を持つのではないかと。地面から水が出る噴水があるが、こういうものが公園にあるとよいと思う。そして、柿田川をどう守っていくかであるが、柿田橋から川を見ると木が生い茂ってしまっていて川を覆ってしまっている。「保全」ではなく「保護」になってしまっているのではないかと。あの状態が本当に良いのか。国交省と相談して子どもたちや孫の代まで美しい状態として残してほしい。若い世代も含めて話し合っていくべきである。
- ・昔は、八つ橋と船着き場の間のところから富士山が見えたが今は見えなくなってしまった。柿田川の歴史を学ぶと、かつてはかまどの薪として採取していた事実や御殿場泥流の地質であるため今のように木が大きくなると木の重さで斜面が崩れてしないかと心配であり、ある程度伐採する必要があるのではないかと。教材園であるが、昔は先生が PTA を巻き込んで蜚の飼育や生物の観察会などいろいろなことを実施してくれていた。児童に柿田川の本を配っていたが、今はないのか。もう少し学校の授業で柿田川のことを教えてほしい。
- ・清水町の遺跡では、矢崎遺跡や泉大宿遺跡では弥生土器が出る。泉大宿遺跡は、柿田川に沿った遺跡である。小学校 6 年生に清水町の弥生時代から戦国時代までの歴史の講義を行った。そのなかで清水町は川の町であるため、川を利用してきた泉頭城や戸倉城などのことを話した。子どもたちに知ってもらうことが重要だが、柿田川のことについて、南小学校の児童はあまり興味がない。歴史を知ることにより柿田川への興味を持たせたい。
- ・自然を守るためにも人を集める必要がある。どのような外来生物が入ってくるのか把握することが重要である。現状植生を見るとかなり外来種が入り込んでいる。これからは常に入り込む。河川全体を守る必要があるが、上流を優先する。そこに外来種が入ると一気に川全体に広がってしまう。国道を通過する車両に付着した種子が雨水とともに河川に入り込んでしまう。国道の構造を変え、埃や雨水が入らないようにする必要がある。歩道を通過する際に柿田川が見られるとよい。雨水対策のために、枝を払ってもよいと思う。光の差し込み具合だけでも植生は変わるのでよく考えて剪定する。一帯を管理するにはお金が必要であるため、ある程度のイベント等が必要である。その拠点であるビジターセンターの設置も必要ではないかと。カヌー体験の開催などはどうか。守るためには多くの人が集まって守っていかなければならない。柿田川は、常にデリケートであり、川底が固くなると植物が育たなくなるので、気を付けて、しっかり管理していけばアクティビティは実施できる。

- ・昔と比べて湧水が減ってしまった。高齢の方は、鮎も減ってしまい悲しいと言っている。先日新聞の中で静岡県が一番住みたい県となっていた。それは、柿田川湧水という素晴らしいものがあるため住みたいという意見もあった。富士山の雪解け水を大手企業が上流で吸い上げてしまうと湧水量が減ってしまうので、企業や長泉町、裾野市と協力して湧水を減らさないような施策をとってほしい。
- ・昔、子育て支援をしていた時、沼津の商店街の役員からどのようにしたら子育て世代が商店街に来訪してくれるかの相談を受け関わったことにより、小さいことは自分たちで少しずつ行っていくべきと考えた。自分にできることは、小さくでもよいので行政に頼らずやってみようと思った。教材園でイベントを行ったことがあるが柿田川の湧水を使った「心太」や「コーヒー」などを出した。柿田川を守ってくれる人がいることは素晴らしいことだと思う。いろいろたどっていくと富士山に植樹を行い、水を守っているということも知った。観光につなげるには、ルールを守ることと守っている人がいることを知ることが重要だと思う。自分は、観光より日常的に川に入ることができることが重要だと思う。昨年度、沼津観光協会のHPのリニューアルを行ったが、そのなかでいろいろな意見があったのだが、沼津市と清水町のHPには、ともにフォトライブラリーがあるのだが、沼津市は市民の写真が公開されておりいろいろな写真があるが、清水町のフォトライブラリーは町民の写真がなく柿田川の写真もほぼない。沼津市のように町民の写真を集めれば、発表の場や柿田川の素晴らしい風景の発見の場になるのではないか。
- ・「保全」がありきの「親水」だと考える。まずはターゲットを町民にしばらく明確にしたうえ、HP等を更新し今の柿田川の状況（外来種等）を知ってもらうことが重要である。柿田川を知らない子供達がいる状況を踏まえて、どのようにしたら愛される柿田川になるのか考えていけばよいのではないか。親水については、水に入るだけでなく、景観や、例えば清水町の水道料金がとても安いのも柿田川の恩恵であることを知ってもらい、理解して頂くのも親水の一つと考える。柿田川みどりのトラストの方々や関係団体と協力しながら保全していく。樹木についても、河川管理上剪定が必要なものはご意見を頂きながら管理していく。今回配布させていただいているが、「柿田川保全ガイドライン」は保全にあたり目的や趣旨、柿田川における活動に際して留意点や注意点が整理している。「柿田川保全ガイドライン」を指針として進める。
- ・柿田川を保全し、活用していき、活用の中で町民の誇りとして広めていくのが重要である。「親水」について、三島の白滝公園では、夏の期間は子供たちが遊んでいる。農業用水等で人工的に整備している場所に入ることが多い。柿田川は一級河川であるため、直接川に入るのではなく、噴水や親水広場を活用していくのが重要である。また、ボランティアの活動や外来種駆除を行っていくなかで、歴史的価値を交えて取り組んでいけたらどうか。
- ・私は、一人で外来種駆除を1975年から始めた。県と国でもしっかりと柿田川の保全を行ってもらいたい。柿田川を知って考えてもらうためにも、外来種駆除に参加してほしい。今月末に、59名の参加で柿田川に親しむ会を行う。川に入って体験してもらうことが重要である。8月17日は県主催で柿田川の自然観察会を行う。

- ・川のことは保全活動をしてみないとわからないことがある。誰でも入れないため、ビジュアル的な説明や、子どもたちは今タブレットを持っているので活用して教える方法もある。保全中心の方向性を間違えないようにしてほしい。外来種駆除に中学生くらいから参加できるようにしたい。今後、子どもたちに保護活動を中心とした柿田川と触れ合える機会を多く与えていきたい。柿田川公園によく幼稚園児がくるので話をするのもよいと思う。
- ・一方では生物の多様性を守らなければならない。一方では住民の憩いの場とならなければならないと考えている。「親水」から「利水」まで求めるのではなく、柿田川を理解することによって「保全」するというのが重要である。木が大きくなってしまい柿田川を覆ってしまうなど本来守らなければならない自然をダメにしてしまうような悪い自然は、国交省さんで確認して除去するなど対処してほしい。
- ・先日の日曜日に柿田川清掃を行った。約 200 名が参加してくれた。特にノハカタカラクサの除去を行った。外来種は生存力が強い。今回は、河川内ではないが公園の外来種駆除を行ったが、中学生からは楽しいとの感想をいただいた。このような活動に参加するということが重要だと思った。教育が重要と考えているため、小中学生には、柿田川の総合学習を行ってもらいたい。

座 長：町長、何かありますか。

町 長：本当にいろいろなご意見を伺いました。すぐできることと、そうでないこととたくさんありまして、町でできること学校にお願いしなければならないことたくさんございました。これらを施策の参考とさせていただきます。

座 長：今回は、ここまで出された皆様の意見を基に、「保全」と「親水」対立概念ではなく、両者並び立つ方法がないかということのをぜひ皆様と考えていけないかと考えています。忌憚のない意見を頂ければと思います。

○事務連絡

- ・次回開催日等について事務局から事務連絡を行い 10 月に開催(予定)したい旨を伝え、出席可能日のアンケートを各委員に依頼した。

~~~~~